

「一言目に感動を」

◆ こんなことで後悔したことはないだろうか？

気がつくと愚痴や不満ばかり漏らしてしまう。

なぜか喋ると嫌味っぽくなってしまう。

子どもや部下に、つい注意や指摘ばかりしてしまう。

◇ そんなときにオススメしたいのが、言葉のスタートを

意識することである。喜び、悲しみ、驚き、疑い――。

人の心が動いたとき、まず一言目に口から出る言葉を

「感動詞」と呼ぶ。重要なのは、どんな感動詞を使う

かということだ。「おお。わあ。まあ。」前向きな感動

詞は、語尾が上がる。「はあ。ええ。やれやれ。」逆に

ネガティブな感動詞は、語尾が下がる。感動詞次第

で、後に続く言葉が変わってくるのだ。

◆ さらに、わかりやすい例を挙げよう。「ああ」という

感動詞の語尾を変えながら、次のセリフをぜひ声に出

してみてほしい。

「ああ、今日も一日が始まった。」

同じセリフであっても、感動詞の使い方次第でこんな

に雰囲気が変わるから、言葉って不思議だ。

◇ 何事も最初が肝心。一言目を変えるだけで、心の向

き、人生の向きもがらりと変わっていく。

—— 天理のことば ——

「言葉一つが肝心。」

吐く息引く息一つの加減で内々治まる。」

（天理教教祖伝逸話篇より）

〔解釈〕

温かい言葉によって人を喜ばせることもできれば、冷たい言葉で人を傷つけてしまうこともできる。相手を思いやる言葉によってこそ、円満な家庭や社会をつくっていくことができる。

陽気ぐらしの天理教

